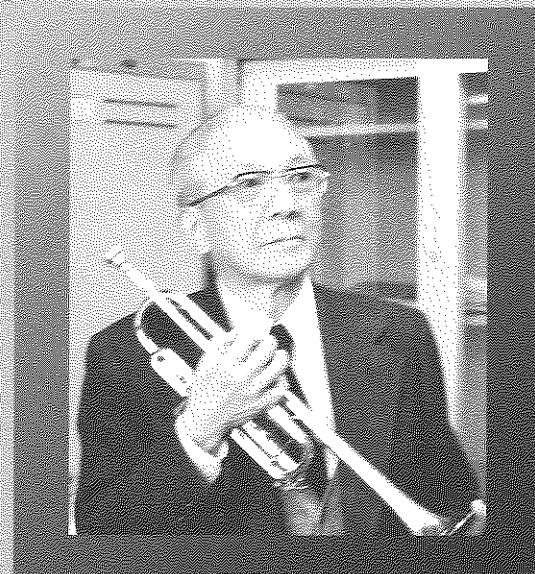
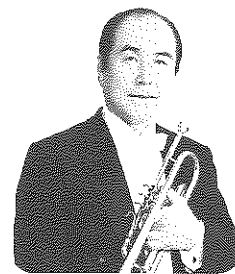


中山富士雄メモリアルコンサート



コンサート

14:00



ごあいさつ

日本トランペット協会
会長 北村 源三

本日は中山富士雄メモリアルコンサートにおいでくださいます
て誠にありがとうございます。日本のホルネット、トランペット
愛好家或いはプロの奏者で中山先生と関わりのない人は殆どいな
いと言っても過言ではないと思います。その中山先生の三回忌と
言うことで日本トランペット協会、東京芸術大学トランペット会、
慶應義塾ワグネル・ソサイエティー・オーケストラ三田会、東京
芸術大学同声会等より話があり、それではと言う事で日本トラン
ペット協会が中心になってコンサートを執り行う事となりました。

各方面の方々と先生の功績を称え、そして中山先生を偲ぶひと
時となりますよう願ってやみません。またこのコンサートのため
にご協力くださいました各位に感謝いたします。

ごあいさつ.....

慶應義塾ワグネル・ソサィエティー・オーケストラ 三田会
会長 伊東正澄

「中山先生もう一度お願いします。」

私達は慶應義塾ワグネル・ソサィエティー・オーケストラの部員の時代からご指導を戴き、卒業後も合奏は勿論、社会人としての人生相談までご指導を得た者にとって中山先生は永遠の師であります。

26年間の現役指導をなさって本業がお忙しいとして後任に指導を委ねられた直後に、それまでの卒業生が社会人になってからも演奏活動を続けたいと願ってワグネルOBオーケストラを組織し、ご無理を承知で中山先生のご指導をお願いして7年間も引き受けて戴きました。

現役学生の指揮を引き受けて戴いた昭和23年当時は敗戦後の混乱期で、学生生活を維持する為のアルバイト全盛期でしたから在籍40名弱、練習に出席するもの10数名と云う状況が暫く続きました。音程の悪いメロディーは勿論、無いパートだらけの合奏には次々に声を大きく先生が唄って補われたものでした。報酬は一切受け取られませんでしたし、先輩を動員しても足りないパートのトラの交渉は金額を含めて全部先生がやっておりました。

練習が終わると一緒に遅くまで相談に乗って下さる中で、ウィーン・フィルやギャルド・レピュブリケーヌに御自身感激された後は熱っぽく話して下さい「演奏は頭で解るだけでは駄目、熱い心を込めて弾くように」と練習場でのご注意とは別のお話を繰り返されたのを思い出します。

思い出の文集を作りましたものに寄せられました先生の奥様や専門家が書かれたのを拝見しますと如何に先生が偉い存在であったかを改めて知り、先生にご指導を得られたのを幸せに思います。亡くなる1ヶ月程前に先生からお電話を戴いた時に「少し良くなったら会いましょう」と申されたのが耳に残ります。2001年ワグネル創立100周年記念演奏会には棒を振って戴く夢は消えました。しかしそれでも何処かでもう一度と云う想いが残ります。

中山先生有り難うございました。

ごあいさつ.....

東京芸術大学音楽学部同声会
会長 渡邊 高之助

このたび中山富士雄君を追悼してメモリアルコンサートが開かれることになりました。

中山君は東京芸大（旧東京音楽学校）の器楽科トランペット専攻を卒業され、日本に於けるトランペットの大先輩としてその演奏活動に、後輩指導に、大きな足跡を残されました。又、東京芸術大学音楽学部同声会長としても多大な貢献を尽くされました。

私も専門こそ異なれ、芸大同期のクラスメートとして公私共に深いおつきあいをさせて頂きました。中山君は非常に温厚誠実な性格で多くの方々から敬愛され、教えられるところ大きなものがありました。

特にジャズピアノが達者で、よく仲間間でのパーティーで彼のピアノで社交ダンスを踊ったものです。思えば、学生時代仲間同志のキャンプ生活、夏休み鎌倉由比ヶ浜での海水浴、在学中の学校の各地方演奏旅行等、若き青春時代の懐かしい思い出は尽きません。

今日ここに、中山君の御指導を受けた門下の方々、おつきあいあった方々等、期界の第一線でも活躍されている方々が一堂に会してのメモリアルコンサートは、さぞかし盛会を極めることでしょう。かの有名なイタリアの名テノール、エンリコ・カルソーの声を評してトランペットの様な輝きのある声といわれたそのトランペットが、一堂に会しての壮観は耳を奪われるような壮麗極まりないものでしょう。

天上の中山君も、さぞかし喜ばれるにちがいありません。

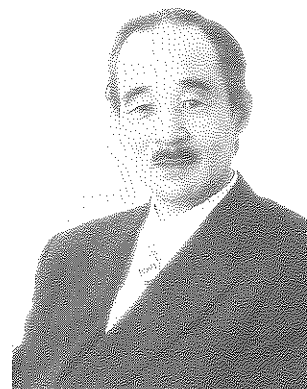
心から、会の御盛會と、中山君の御冥福を祈って止みません。

PROGRAM

1. J.T.A.トランペット・アンサンブル

トランペット奏者の為の賛歌／神津善行

～中山先生の為に…。最大の愛を込めて。1990年5月～



神津善行氏

トランペット：阿部ちさと、奥山泰三、海保 泉、加古 勉、杉本正毅、
曾我部清典、津堅直弘、山本英助
指揮：山口進一郎

この曲には何故かご縁があり、何度か指揮をさせて頂いております。

たしか初演の時だと思いますが、神津先生がわざわざ楽屋においでになり、中山先生共ども楽しく談笑していた中で、この曲のモチーフは中山先生のお名前をシューマンの音楽帳にてらしてお作りなされたとお話がありました。

先生もニコニコ嬉しそうにお聞きになっていたのを思い出します。今回の演奏で先生のお元氣な頃を偲んでいただければと思います。

山口 進一郎

2. コルネット独奏

コルネットとピアノのための三つの小品／高田信一

コルネット：神代 修
ピアノ：山口 佳代



故 高田信一氏

この度、高田先生の作品を演奏させて頂くにあたり、まずした事は楽譜探しでした。幸運にも、自筆譜が高田先生のご自宅から、さらに東京音大から金石先生による録音が見つかりました。

中山先生と高田先生は同級生で、昭和14年のある日、お二人が電車内で話し合いながらスケッチができ、アーバン教則本をもとに作曲されたそうです。

本日は、中山先生が学生の頃から大切にしてくられたコルネットをお借りして演奏いたします。

神代 修

3. トランペット独奏

ハンガリアン・メロディー／V.バック

トランペット：北村 源三
ピアノ：山口 佳代

世界の金管楽器ブランド「ヴィンセント・バック」の創始者である彼はコルネット奏者でもあった。この曲は彼によって自作自演されたのである。私は大学3年生の時にバックのトランペットを買った。そして中山先生にこの曲のレッスンを受けてNHKの午後のリサイタルと言う番組で演奏した。日本初演であった。今日は中山先生を偲んで、この楽器で演奏します。

北村 源三

4. コルネット二重奏

オールウェイズ・チェアフル/A.H.ジェイクウェイ

コルネット：杉木 肇夫・福田 善亮
ピアノ：山口 佳代

中山先生のレッスンで先生の伴奏でこの曲を練習した生徒も多い、思い出の曲のひとつだろう。救世軍の賛美歌の中に同じ題名の歌がある。歌詞の中に「いつも変わらない心の太陽のなかで、いつも喜んでいなさい。」と歌う。このメロディーを主題に、3つのバリエーションに展開する。

A.H.ジェイクウェイは、1893年生まれ、英国救世軍の士官（伝道者）で、晩年は万国音楽編集部長として四代目の任命を受け活躍した。1930年代の作でピアノ伴奏付きの楽譜と共に、金管バンド伴奏のものも出版された。

先生秘蔵の（当時SP盤レコードによる）テープを聞いたことのある方もいると思うが、それは作曲家自身の指揮による名演であった。

鈴木 肇

5. メモリアル・スペシャル

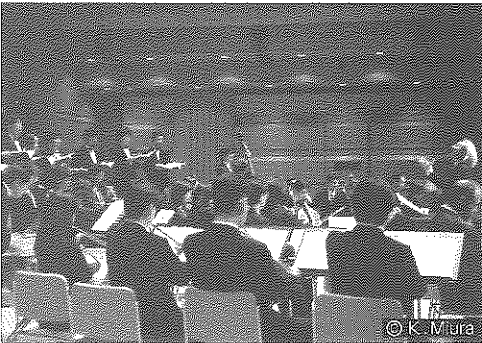
ブランデンブルク協奏曲第二番/J.S.バッハ

独奏トランペット：島田 俊雄
オーケストラ：バッハ・コレギウム・ジャパン
指揮（フェノロ）：鈴木 雅明

《バッハ・コレギウム・ジャパン(B.C.J.)》

バッハ・コレギウム・ジャパン(B.C.J.)は、日本を代表するオルガン、チェンバロ奏者で東京芸術大学助教授の鈴木雅明氏が、世界の第一線で活躍する日本のオリジナル楽器のスペシャリストを擁して、1990年に結成した本格的なバロックオーケストラと合唱団。

特にヨハン・セバスティアン・バッハを中心とするバロックの宗教作品を理想的に上演し、普及させることを主旨としている。また、『バッハ：教会カンタータ全曲』レコーディング（スウェーデンBIS社、約200曲、2015年に完結予定）は、「世紀のプロジェクト」として国内はもとより海外でも高い評価を得ている。



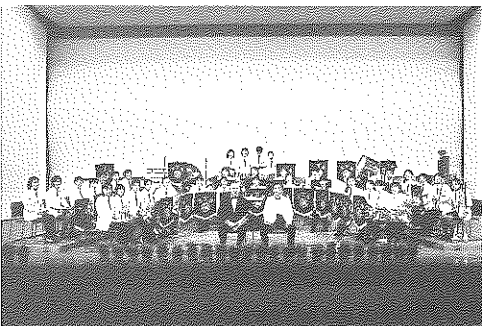
バッハ・コレギウム・ジャパン(B.C.J.)

6. 金管バンド

・G線上のアリア/J.S.バッハ (H.スネル 編曲)
・シャイン・アズ・ザ・ライト (太陽のように輝いて)/P.グラハム演奏：雀宮ユースバンド
指揮：敷内 輝雄

「これは、イギリスの靴下工場の工員さん達の演奏だよ」と、先生がレッスン場でレコードを聞かせて下さったのが、私と金管バンドの出会いでした。その美しい音色と、繊細で、歌うような自由な表現が、すべて金管楽器だけで行われ、まして、演奏しているのはアマチュアの人達であることを説明していただいたとき、日本と世界の差を感じました。フィリップ・ジョーンズ・プラスアンサンブルなどの名プレーヤー達が皆そこから育ったことを知り、日本の音楽を世界のレベルに近づけたい、そのためにはレベルの高いアマチュアを沢山育てたい、との先生のお考えに少しでもお役に立てれば、と思い雀宮ユースバンドを今日までやって来ました。「ユースを東京で演奏させたい」と言う先生のお気持ちが、こんな形で実現したのは誠に残念ですが、先生の教えは我々の心に、いつまでも「太陽のように輝いて」います。

敷内 輝雄



雀宮ユースバンド

7. 音大生による合同アンサンブル

・オラトリオ「聖パウロ」より
フーガ/J.L.Fメンデルスゾーン (W.シュミット 編曲)
・ジーザス・イズ・ストロング・トゥ・デリヴァー
/W.スペンサー (板倉駿夫 編曲)トランペット：上野学園大学 / 大和裕美、笹澤理恵
宇都宮短期大学 / 早崎貴仁
昭和音楽大学 / 飯島彰忍、小塩智彦、繁友宏治、高橋幸浩、
竹之内宏幸、出口純子、二本柳摩岐子
東京芸術大学 / 上田 仁、小川 聡、坂本 敦、佐藤友紀、
渡辺隆太
武蔵野音楽大学 / 甲賀明史、野末裕美、萩原大輔、三ツ泉千春、
室井由香里

指揮：板倉駿夫

中山先生のレッスンでは「アーバン教本」の他にコルネットソロの小品を数多く教えて頂きました。全管楽器の演奏法のみでなく、声楽あるいは弦楽器の表現力豊かな音楽を御教授下さいました。私達門下生にとっては、とても貴重な教えでした。それらの曲の中で私にとって特に印象深いのが、本日演奏させて頂きます「JESUS IS STRONG TO DELIVER」(邦題：イエスは力ある救い主)です。本日は先生の教えを受けた5つの音楽大学の学生諸君の御協力でトランペットだけの演奏をお聴き願いたいと思います。

板倉 駿夫

8. 中山メモリアル・グランド・アンサンブル

・イタリア風協奏曲より第3楽章/J.S.バッハ (水口透 編曲)
・歌劇「ローエングリン」より
エルザの大聖堂への行列/R.ワーグナー (水口透 編曲)トランペット：浅海伸夫、阿部ちさと、板倉駿夫、奥山泰三、海保 泉、
加古 勉、鴨井次郎、河辺のぶ子、北川 晋、北村源三、
神代 修、末馬 賢、小林好夫、小原裕樹、坂井俊博、
島田俊雄、杉木肇夫、杉本正毅、鈴木 肇、関根剛二、
菅我部清典、竹内 信、田中 昭、津堅直弘、富田悌二、
福田善亮、藤井 完、光信利彦、村田綾子、山口進一郎、
山本英助、吉澤賢太郎

トロンボーン：門脇賢智志、亀谷彰一、栗田雅勝

指揮：福井 功

「音楽は、熱い心と冷えた頭で演奏しなければならない」と中山先生はよくおっしゃいました。これは、演奏する時は情熱的な心を持ちながらも、冷静で客観的な判断力が必要だということです。しかし、これと反対に「熱い心と冷えた心での演奏」つまり、興奮していて冷静さを失い、感情を込めて歌うことをしない方が多い、と先生は指摘されました。このお言葉には私も全く同感で、若い人達によく伝えたいと常に思っております。

福井 功